

二〇二四年度 トキワ松学園中学校入学試験

適性検査型 適性検査ⅠA 問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を  
書き入れなさい

次の**文章A**・**文章B**を読んで、あとの問題に答えなさい。

(\*印の付いている言葉には、文章のあとに〈言葉の説明〉があります。)

### 文章A

\* AIと人間の決定的な違いは、「沈黙」にあると思っています。AIは黙っていることができません。ここで言う沈黙には意志が必要だからです。

たとえば、若い人から相談を受けているとき、「こうしたほうがいいのにな」という答えが私の中にあつたとしても、何も言わずに話を聞くだけことがあります。若い人に仮初の答えを与えることよりも、その人に寄り添い、その人自身が答えを見つけることのほうが大切だからです。

会社でも同様でしょう。上司になったら時には黙っていることが必要です。上司とは的確な答えを与える人ではなく、部下自身が答えを見つけられるような場をつくる人だからです。

一方で、AIは沈黙しませんし、場もつくりません。問いを投げかけるとすぐに答えてくれる。もしかしたら、人間よりも明確な答えを与えてくれるかもしれません。ですが、そうして与えられた答えが物事を解決してくれるとは限りません。AIはその人が自らの経験の中で答えを見つけるまでじっと黙って待っていてはくれないのです。

与えられる知識と、自分で得る経験とはまるで違います。仕事の現場で実際に失敗してみると、こんなに周囲に迷惑をかけてしまうん

だなど身に染みて分かる。これは「失敗」という言葉の意味だけを知っていることは全く異なります。

一つの言葉においても経験は重要です。これはどの言葉にもあてはまります。水なら水そのもの、花なら花そのものを経験することが大切です。AIは言葉に付随する知識を教えてくれるかもしれませんが、言葉が指すことそのものを教えてくれるわけではない。それなのに、知識を先に与えられると、経験をしなくてもいいように錯覚してしまふ。

恋愛したこともないのに、恋愛哲学を語るようになる。死を考えたこともないのに、死について分かった気になる。潮の香りもかいだことのない子どもが、七つの海について、とうとうと語るようになってしまふかもしれない。それは怖いことだと思います。

本来は世界をどう経験するのが重要なのに、世界をどう理解するのかのほうに重点が移ってしまうと、常に一歩下がって世界を眺めていけばいいことになります。

(若松英輔 『沈黙のすすめ』中央公論2023年7月)

〈言葉の説明〉

AI……人工知能。人間に代わってコンピュータに知的なふるまいをさせる技術。ここではチャットGPTなど、文章を生成する対話型人工知能を話題にしている。

## 文章B

コンピュータの発達と科学や技術の進歩により、人類が持つ知識は爆発的に増えつづけ、複雑化した社会における問題解決に必要な知識すべてを自分自身の中に持つことはまったく不可能になった。他方、インターネットの使用により、個人はもはや、膨大な量の知識を全部自分の中に溜め込む必要もなくなった。必要な時にその知識がある場所を見つけ出してアクセスすればよくなったのである。

つまり、インターネットは個人に求められる資質、能力に変化をもたらしたのだ。現代社会に求められているのは、知識の量ではない。むしろ、世界中に分散している情報の中から必要な情報を探し出し、取得した情報を適切に評価・コーディネートし、問題解決のために用いる能力となったのである。

現実社会において個人がひとりで大きいプロジェクトや複雑な問題解決を遂行することはめったにない。むしろ、ほとんどの場合は複数人でチームを組んで行う。そして、解決しなければならぬ問題が複雑極まるものである場合、同じ専門知識を持つ個人が集まるより、専門知識が異なる個人が集まってチームを組んだ方がよい。ただ、その場合、もちろん、異なる専門家がそれぞれ自分勝手に仕事をしていてはダメで、チームの間で分散された知識をコーディネートし統合していくコーディネータが必要になる。この役割を担うのは、たとえばオーケストラの場合なら指揮者にあたる。指揮者に求められるのはもちろん偉そうにタクトを振っていればいいということではない。楽団

員の能力や個性を熟知し、全体像を考えその総和が最大になるようにコーディネートできる能力である。つまりそこにあるリソースを最大限に活用し、それを統合して最大の効果を得る能力が求められるのである。

現代社会では何人ものメンバーで行う大がかりなチームプロジェクトに限らず、個人レベルでの問題解決においても、このオーケストラの指揮者のような役割を担うことが多かれ少なかれ求められている。

(今井むつみ 野島久雄 岡田浩之)

『新人が学ぶということ』

〈言葉の説明〉

アクセス……情報を探して利用すること。

資質……生まれつきの性質や才能。

コーディネート……各部分を調整して全体をまとめること。

プロジェクト……研究や事業などの開発計画。

遂行する……物事を最後までやりとげること。

統合……複数のものをひとつにまとめ合わせること。

タクト……指揮棒。

リソース……目的を達成するために必要な要素や資源。

〔問題1〕

**文章A**

① それは怖いことだと思えますとありますが、

筆者はどのようなことを「怖い」と考えたのですか。**文章A**  
全体をふまえて五十五字以上七十字以下で答えましょう。

(書き方のきまり)

○ 行をかえたり、段落をかえてはいけません。

○ 読点↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一ますに書き  
ましょう。

○ 文章を直すときは、消しゴムでいねいに消してから書き直し  
ましょう。

〔問題2〕

**文章B**

② 個人レベルでの問題解決においても、このオ

ーケストラの指揮者のような役割を担うことが多かれ少  
なかれ求められているとありますが、現代では問題解決  
の際に求められる能力はどのようなものですか。本文の  
内容をふまえて、五十字以上七十字以下で説明しまし  
よう。

(書き方のきまり)

○ 行をかえたり、段落をかえてはいけません。

○ 読点↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一ますに書き  
ましょう。

○ 文章を直すときは、消しゴムでいねいに消してから書き直し  
ましょう。

〔問題3〕

**文章A**

**文章B**

を読み、あなたが自由研究などの

学習をする際、どのようにコンピュータ、インターネット、  
AIなどの情報技術を使っていきたいと考えますか。それ  
ぞれの文章の内容をふまえて、四百字以上五百字以内で  
自分の考えをまとめましょう。第一段落にはふたつの文章  
から読み取ったことを書き、第二段落よりあとにはどの  
ように情報技術を使っていきたいかを書きましょう。

(書き方のきまり)

- 題名、名前は書かずに一行めから書き始めましょう。書き出しや、段落をかえるときは、一ます空けて書きましょう。
- 行をかえるのは段落をかえるときだけです。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。
- 読点とぅてん↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一ますに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓」は、同じますに書きましょう。
- 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じますに書きましょう。
- 書き出しや、段落をかえて空いたますも字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。
- 文章を直すときは、消しゴムでいねいに消してから書き直しましょう。